

第2次宇都宮都市交通戦略 施策事業評価表2

1. 施策の目的と目標

□基本方針	2. 交通手段と交通手段を「つなぐ」	□目的	誰もが自由に移動できるよう、多様な交通手段を円滑に乗り継ぎ・乗り換えできる環境を整備するため、鉄道駅やトランジットセンターなどの交通結節点の整備に加え、乗り継ぎに配慮した公共交通のダイヤ編成や運賃負担の軽減など、ハード・ソフトの両面から交通手段の連携を強化し、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。			
□施策の体系	(1) 多様な交通手段の乗り換え施設を整備する (2) 他の交通手段への乗り換えを円滑にする					
□目標指標	指標名	基準数値 (a) (基準年)	数値 (b) (評価年)	目標数値 (c) (目標年)	進捗状況 (%) 基準年(a/c) ⇒ 評価年 (b/c)	進捗評価
	① 都心部と各拠点間の公共交通による移動時間	平均47分 (H29年度末)	平均47分 (R1年度末)	平均31分 (R10年度末)	66.0% ⇒ 66.0%	進捗していない ※バス路線再編やICカード導入が実施前のため
	② 都心部と各拠点間の公共交通の運賃負担	最大800円 (H29年度)	最大810円 (R1年度)	最大500円以下 (R10年度末)	62.5% ⇒ 61.7%	進捗していない ※上限運賃制度が導入前のため
	③ 交通ICカードによる運賃支払いの割合	未導入 (H29年度)	未導入 (R1年度)	90.0% (R10年度)	0.0% ⇒ 0.0%	進捗していない ※ICカード未導入のため

2. 重点事業の実施状況と評価

(凡例) ◎:予定どおりに実施 ○:おおむね予定どおりに実施 (一部未完了) △:一部未実施

施策事業名	事業主体	H30年度(前計画)実施状況	R1年度当初予定	R1年度実施状況	R1年度評価(◇成果◆課題)	R2年度当初予定
2-(1)-① トランジットセンターの整備	宇都宮市	【駅東側】 ○トランジットセンターの整備 ⇒付帯施設的设计(清原管理センター) 【駅西側】 ○LRTの事業化に向けた検討 ⇒JR宇都宮駅交差区間における横断ルートの決定	【駅東側】 ○トランジットセンターの整備 ⇒工事着手(清原管理センター) 【駅西側】 ○LRTの事業化に向けた検討 ⇒JR宇都宮駅西口におけるLRT導入ルート等の検討 ⇒東武宇都宮駅周辺や桜通り十文字付近における交通結節機能等の検討	【駅東側】 ○トランジットセンターの整備 ⇒工事の実施(清原管理センター) 【駅西側】 ○LRTの事業化に向けた検討 ⇒JR宇都宮駅西口におけるLRT導入ルートや停留場の設置位置の検討 ⇒東武宇都宮駅付近や桜通り十文字付近における交通結節機能等の検討	◇駅東側において、清原管理センター付近のトランジットセンターの工事を着実に推進している。 ◇駅西側において、駅西口周辺の再整備の検討と連携しながら駅西口におけるLRTの導入ルート等の検討を行うとともに、東武駅前や桜通り十文字における交通結節機能等の検討を着実に進めている。 ◎ ◆令和4年3月の駅東側のLRT開業を見据え、引き続き、トランジットセンターの工事などに取り組むとともに、乗り入れる交通事業者などの関係機関等と適宜、協議・調整を図る必要がある。 ◆駅西側のLRT導入効果を高めるため、周辺のまちづくりと連携しながら交通結節点の整備のあり方について検討を進める必要がある。	【駅東側】 ○トランジットセンターの整備 ⇒工事の実施(清原管理センター前) 【駅西側】 ○LRTの事業化に向けた検討 ⇒JR宇都宮駅西口におけるLRT導入ルートや停留場の設置位置の決定 ⇒東武宇都宮駅付近や桜通り十文字付近における整備内容の具体化
2-(2)-① 公共交通の運賃負担の軽減	交通事業者 宇都宮市	○高齢者専用定期券の販売開始 ⇒おでさぼ70の販売(10/1~) ○平日定期券の販売開始 ⇒学生限定のより低価格の定期券の販売(JRバス関東) ○バスの上限運賃制度の検討 ⇒ICカードの導入により実現可能な制度内容の整理	○バスの上限運賃制度の検討 ⇒具体的な制度内容の検討	○バスの上限運賃制度の検討 ⇒設定金額や適用時間帯などの詳細な制度内容の検討 ○宇都宮MaaS社会実験への参画 ⇒鉄道やバスのフリーバスの交付による交通行動の変容を検証する社会実験への参画	◇交通ICカードを活用したバスの上限運賃制度の実施に向けて、効果的かつ持続可能な設定金額や適用時間帯の検討を行うとともに、「宇都宮MaaS社会実験」への参画により、運賃負担の軽減による公共交通利用への転換の効果を確認するなど、運賃負担の軽減に向けた検討を着実に推進している。 ◎ ◆公共交通の運賃負担の軽減に向けて、引き続き、バスの上限運賃制度の具体的な制度内容や実施時期について検討する必要がある。	○バスの上限運賃制度の検討 ⇒ 具体的な制度内容の決定 ⇒ 実施時期の検討 ⇒ 制度の周知方法の検討

施策事業名	事業主体	H30年度(前計画)実施状況	R1年度当初予定	R1年度実施状況	R1年度評価(◇成果◆課題)	R2年度当初予定
2-(2)-③ 交通ICカードの導入	交通事業者 宇都宮市	○導入するICカードの種別の検討 ⇒片利用・地域連携ICカード等 ○地域独自サービスの検討 ⇒乗り継ぎ割引や上限運賃等のサービスの実施に向けた要件整理	○導入するICカード種別の決定 ○システム・機器の設計、開発(バス、LRT) ○カード名称・券面デザインの決定	○導入するICカード種別の決定 ⇒地域連携ICカードの導入について関係者間で合意 ○システム・機器の設計、開発(バス、LRT) ⇒地域独自サービスに対応したシステムの開発に着手 ○カード名称・券面デザインの検討 ⇒ネーミングキャンペーンの実施(2/6~2/20)	◇宇都宮地域に導入するカード種別として、Suicaの機能に地域独自の機能を付加できる「地域連携ICカード」を選定し、システム・機器の開発に着手するなど、令和3年春のバスへの導入と令和4年春のLRTへの導入に向けた取組を着実に推進している。 ◇名称・デザインの決定について、商標登録の確認などに不測の日数を要したことから、決定が令和2年4月以降と若干の遅れが生じているものの、名称の決定にあたり、「ネーミングキャンペーン(人気投票)」を実施するなど、市民参加型の取組により、交通ICカード導入に向けた市民の関心や親しみの醸成が図られている。 ○ ◆上限運賃制度や各種ポイントサービスなどの交通ICカードを活用した地域独自サービスの実現に向けて、各サービスの検討と連携しながら、システム・機器等の開発を進める必要がある。 ◆運賃支払いの簡略化に伴う公共交通の定時性・速達性向上など、交通ICカードの導入効果を高めるため、交通ICカードの普及促進を図る必要がある。	○システム・機器の設計、開発(バス、LRT) ○バスでのサービス開始(令和3年春予定) ○交通ICカードの普及促進策の検討・実施

3. 当該年度に進捗した事業(重点事業以外)

施策事業名	事業主体	H30年度(前計画)実施状況	R1年度当初予定	R1年度実施状況	R1年度評価(◇成果◆課題)	R2年度当初予定
2-(1)-③ バスと地域内交通の乗り継ぎポイントの整備	宇都宮市	○乗り継ぎポイントの整備に向けた検討 ⇒バス接近表示機等の設置に向けた検討(富屋地区、豊郷地区)	○乗り継ぎポイントの整備(1か所) ⇒バス接近表示機の設置(豊郷地区:済生会宇都宮病院バス停)	○乗り継ぎポイントの整備(1か所) ⇒バス接近表示機の設置(豊郷地区:済生会宇都宮病院バス停)	◇乗り継ぎポイントとなるバス停にバス接近表示機を設置するなど、待合環境の向上が図られ、地域内交通とバスを乗り継いだ移動の利便性が向上している。 ◆バス接近表示機を設置する民間施設等と協議・調整しながら、引き続き、乗り継ぎポイントとなるバス停の待合環境の向上に取り組む必要がある。	○乗り継ぎポイントの整備(1か所) ⇒バス接近表示機の設置(雀宮地区:雀宮駅入口バス停)

4. 施策の評価

<p><2-(1)>多様な交通手段の乗り換え施設を整備する</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRTの開業に向けて、清原管理センター付近のトランジットセンターの工事に着手するとともに、LRTの駅西側事業化に向けて、東武宇都宮駅周辺や桜通り十文字付近における交通結節機能等について検討するなど、多様な交通手段の乗り換え施設の整備に向けた取組を着実に推進している。 ・バスと地域内交通の乗り継ぎポイントとなるバス停において、バス接近表示機を設置するなど、待合環境の向上を図ることで、公共交通を乗り継いだ移動の利便性向上が図られている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRTやバス路線、地域内交通、タクシーなどが連携した「階層性のある公共交通ネットワーク」の構築に向けて、トランジットセンターなどの整備に取り組むとともに、LRT導入による効果を高めるため、LRT沿線のまちづくり方策と連携した交通結節点等の検討を進める必要がある。 ・バスと地域内交通の乗り継ぎ利便性の向上に向けて、乗り継ぎポイントとなるバス停の待合環境の向上に取り組むとともに、LRTの導入を見据え、地域内交通の運行計画の見直しを含む、LRTと地域内交通の乗り継ぎ利便性の向上に取り組む必要がある。
--

5. 施策の方針

<p><2-(1)>多様な交通手段の乗り換え施設を整備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LRTと他の交通手段の結節機能の強化に向けて、引き続き、多様な交通手段の乗り換え施設であるトランジットセンターの工事などに取り組むとともに、駅西側におけるLRT沿線のまちづくりと連携を図りながら、交通結節点の整備内容を具体化していく。 ・バスと地域内交通の乗り継ぎ利用を促進するため、バス接近表示機を設置する民間施設等と協議・調整しながら、バスと地域内交通の乗り継ぎポイントとなるバス停の待合環境の整備に取り組むとともに、LRTと地域内交通の連携強化に向けて、LRTとの接続に配慮した地域内交通の運行計画の見直しを検討するなど、LRTと地域内交通の連携強化に向けて取り組む。

<2-(2)>他の交通手段への乗り換えを円滑にする

【成果】

- ・Suicaの機能に加えて地域独自の機能を付加できる新たな交通系ICカードである「地域連携ICカード」を宇都宮地域において導入することを決定し、速やかにシステム・機器の設計、開発に着手するなど、公共交通の乗り換えの円滑化に向けた取組を着実に推進している。
- ・バスの上限運賃制度の設定金額や適用時間帯等の具体的な制度内容の検討を行うなど、公共交通の運賃負担の軽減に向けた検討を着実に推進している。

【課題】

- ・公共交通間の乗り換えの円滑化に向けて、引き続き、交通ICカードの導入に取り組むとともに、交通ICカードの導入による公共交通の乗降時間の短縮に伴う定時性・速達性の向上などの効果を高めるため、交通ICカードの普及促進に取り組む必要がある。
- ・LRTの導入を見据え、公共交通を乗り継いだ際の運賃負担の増加を踏まえ、引き続き、バスの上限運賃制度の導入に向けた検討を進めるなど、公共交通の運賃負担の軽減に取り組む必要がある。

<2-(2)>他の交通手段への乗り換えを円滑にする

- ・引き続き、令和3年春のバスへの交通ICカードの導入に向けて、システム・機器の開発に取り組むとともに、多様なメディアやツールを活用しながら、交通ICカードの効果的な普及促進策に市と交通事業者が一体となって取り組む。
- ・バスの上限運賃制度の導入に向けて、サービス提供に必要となる交通ICカードのシステム・機器の開発状況を踏まえながら、設定金額や適用時間帯などの具体的な制度内容を決定するとともに、サービス開始に向けて制度の周知に取り組む。

※ 施策の評価及び施策の方針については、本資料及び別紙1-5「具体的な施策事業個票」に基づき作成